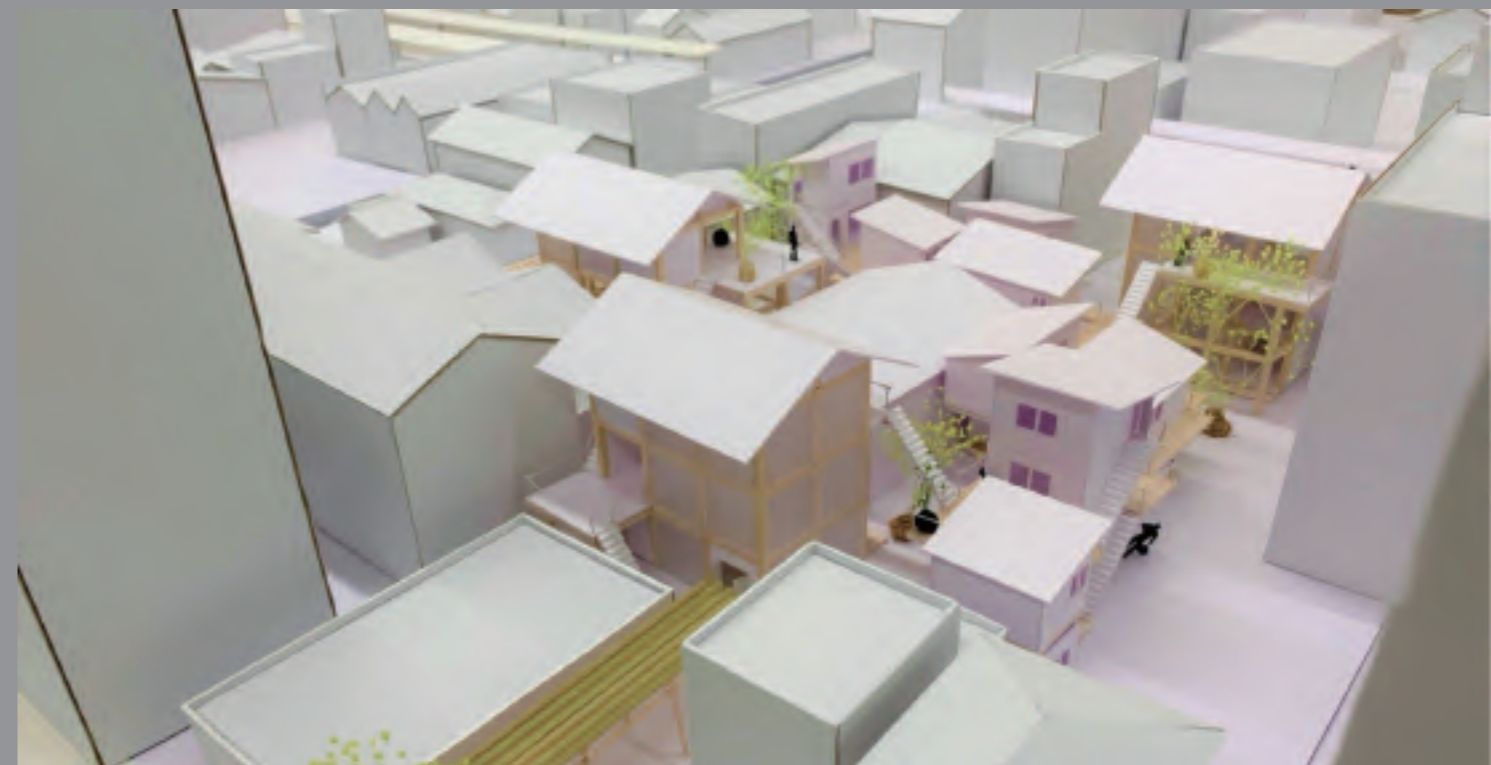


創造の起点

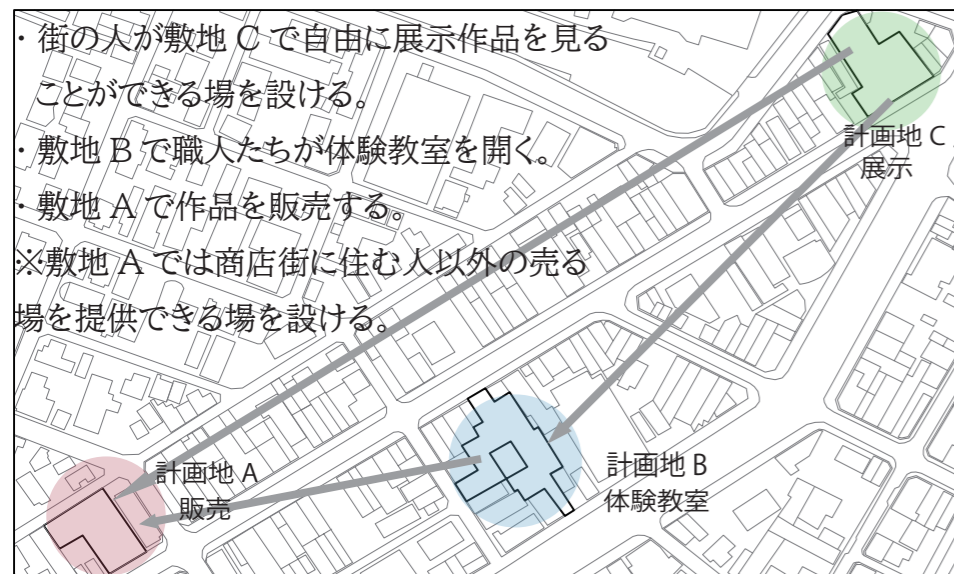
設計コンセプト

ものづくりの文化を根付かせる。居住者を木工職人・竹細工職人・瓦氏職人・染物職人とする。店づくりではなく街作りを設計の主とし、商店街の活性化や静岡県の木材、林業の現状を学ぶ場を提供する。竹細工工房・瓦氏工房・染物工房には、計画地中央のものづくり体験教室で使うことのできる木材を置いたスラブを差し込んでいる。訪問者は敷地を巡り、職人の技術や知恵を目にするだろう。本計画は生活の領域を表に展開することで、街の人の創造の起点となるような新たな住まい方・働き方を提案する。



No.1 木工職人を通じた 3 つのネットワーク

〔販売〕〔体験〕〔展示〕



「住人（木工職人）」の流れ



「作品」の流れ

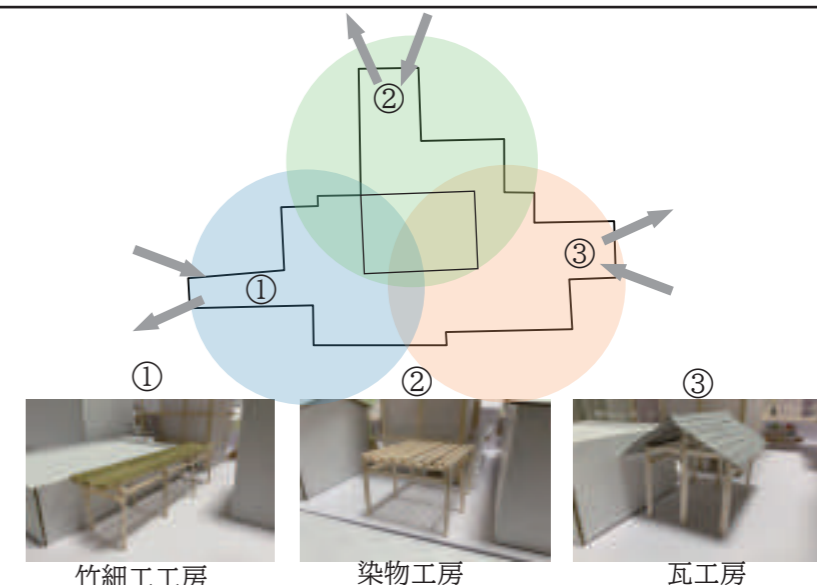


No.2 ものづくりの文化を根付かせる

静岡県はモノづくりの盛んな地域であり、シャッター街となった浅間通りの活性化に一役買うと考えた。静岡県は天竜杉など資源も豊富だが、近年林業は衰退傾向にある。木工職人の技術や知恵を通じて町の活性化や林業の手助けとなることを期待する。

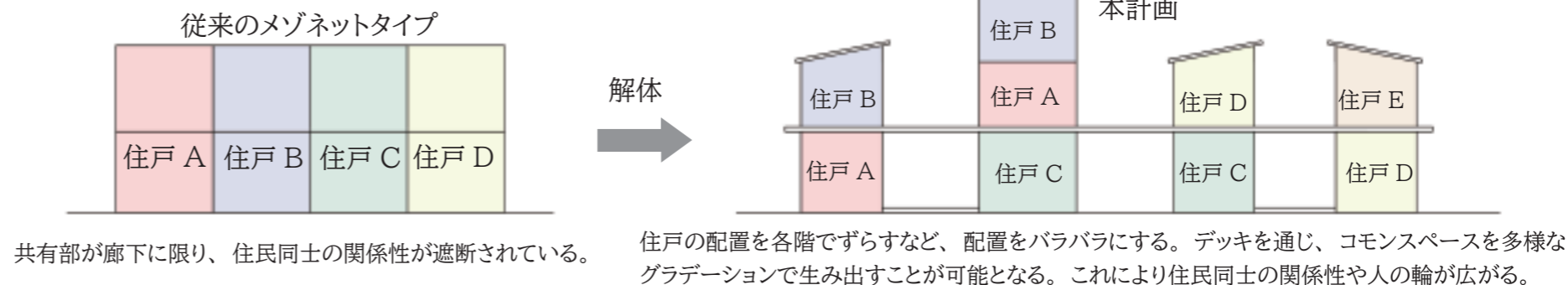
訪問者がモノづくりを〔見る〕〔触れる〕〔体験〕など実際に手にすることで関心や興味を持つことで街にモノづくりの意識が芽生える。この行為の繰り返しによって、やがてモノづくりの文化が街に根付くことを期待し提案する。

No.3 特徴的な形状 敷地 B の 3 つのアプローチ

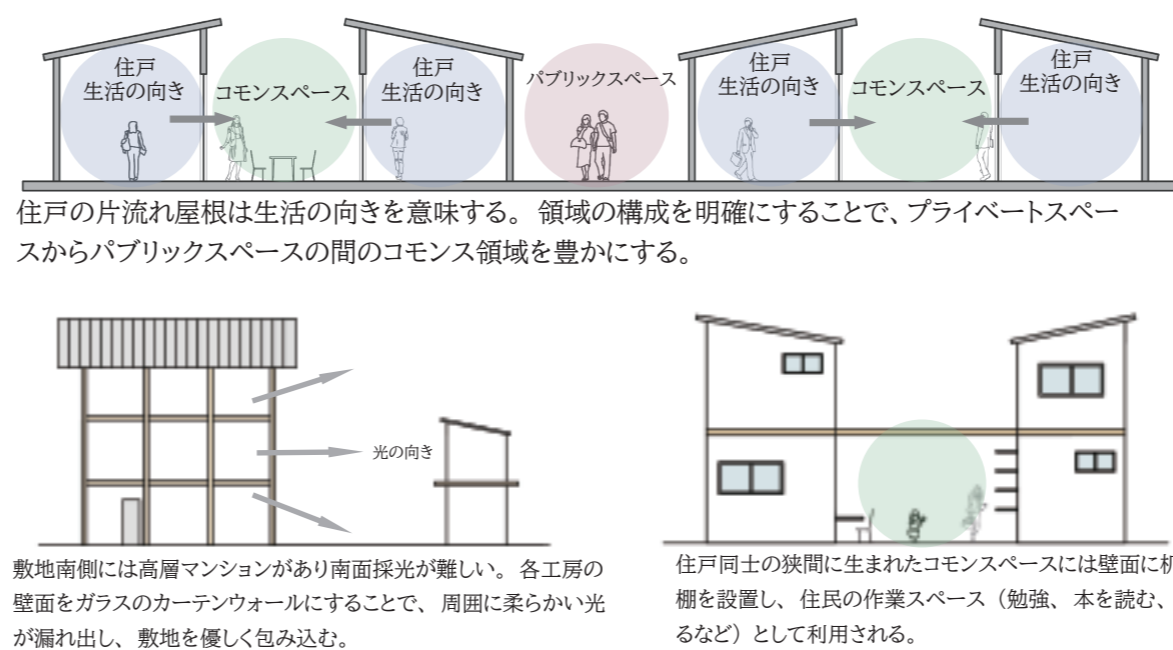


各工房の前方には東屋やパーゴラを設置する。各職人の活動領域を広げるほか、商店街を通る人の休憩場となり職人と街の人との接点を生み出す。

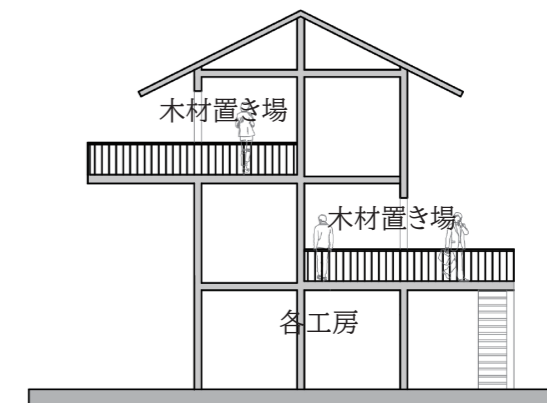
No.4 断面構成



No.5 領域構成



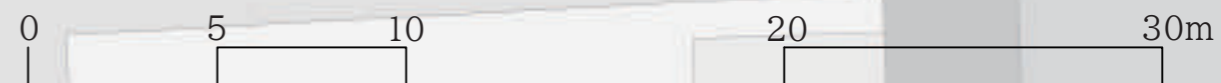
No.6 動線計画から生まれる視線的誘導

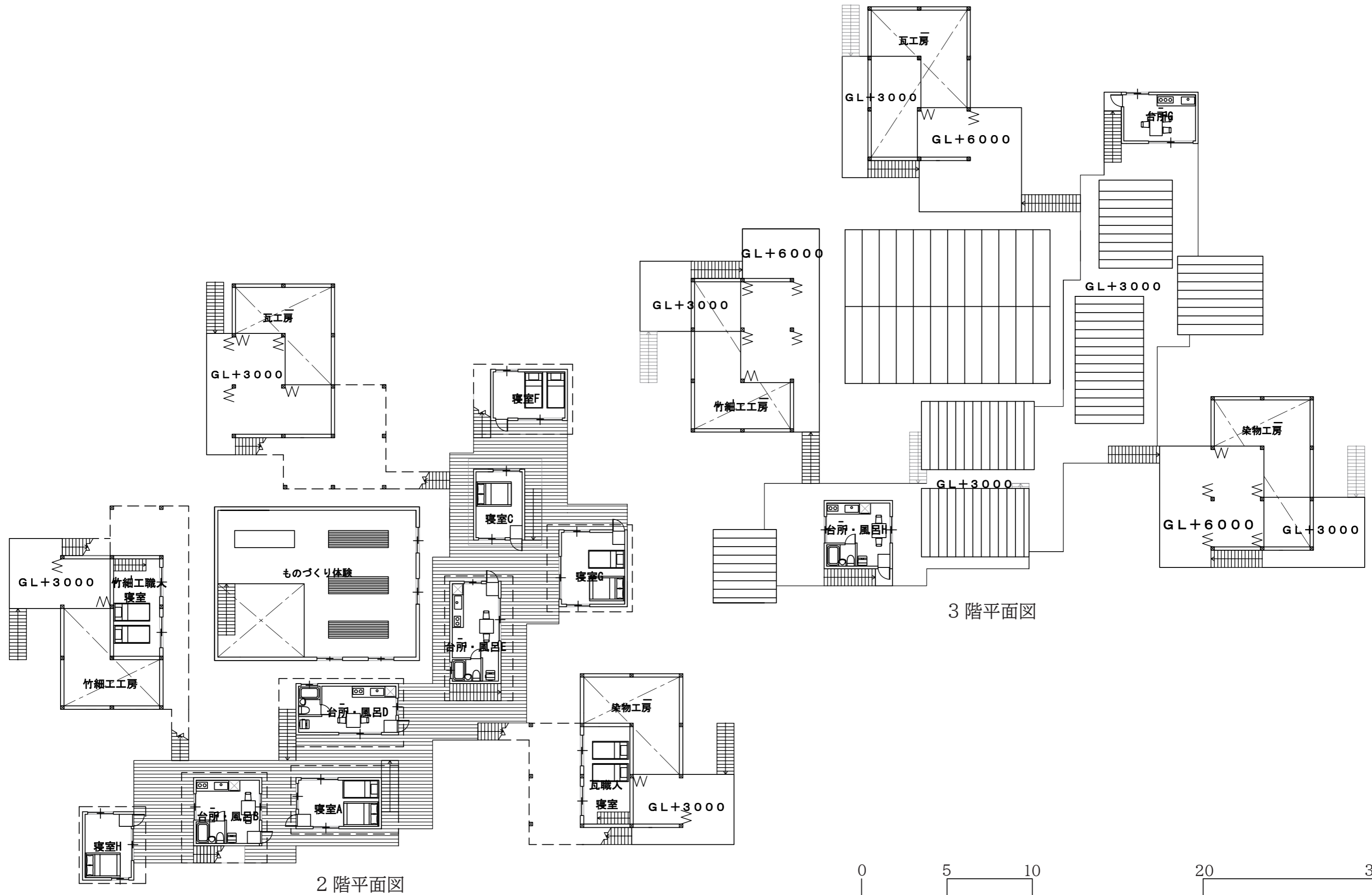


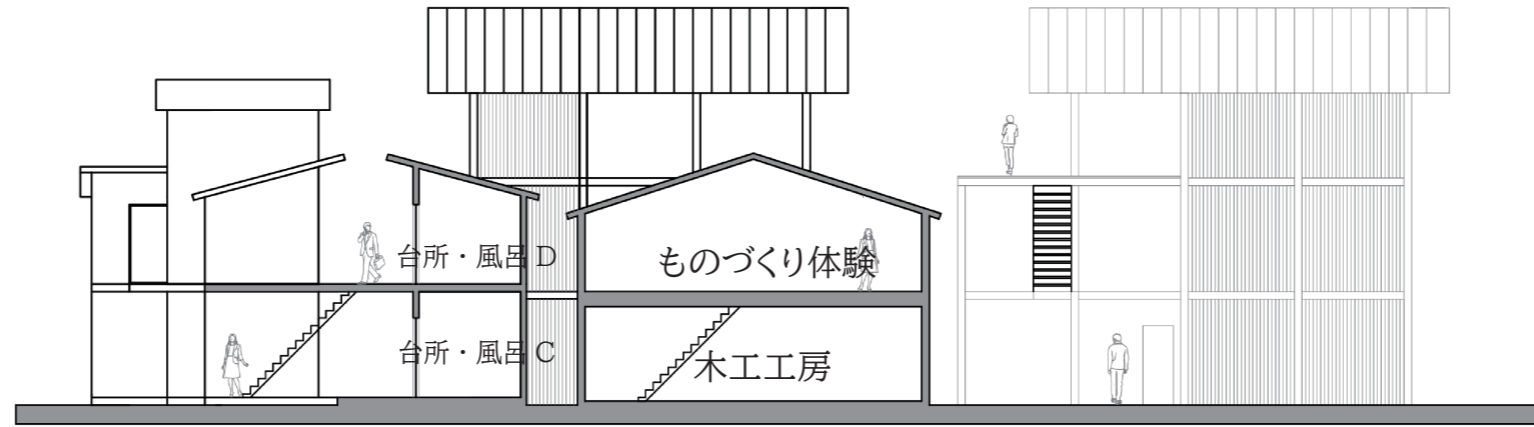
竹細工工房・瓦工房・染物工房には、計画地中央のものづくり体験教室で使うことのできる木材を置いたスラブを差し込んでいる。そこからは吹き抜けを通じ、各職人の活動を伺うことができる。訪問者は敷地を巡り、職人の技術や知恵を目にするだろう。



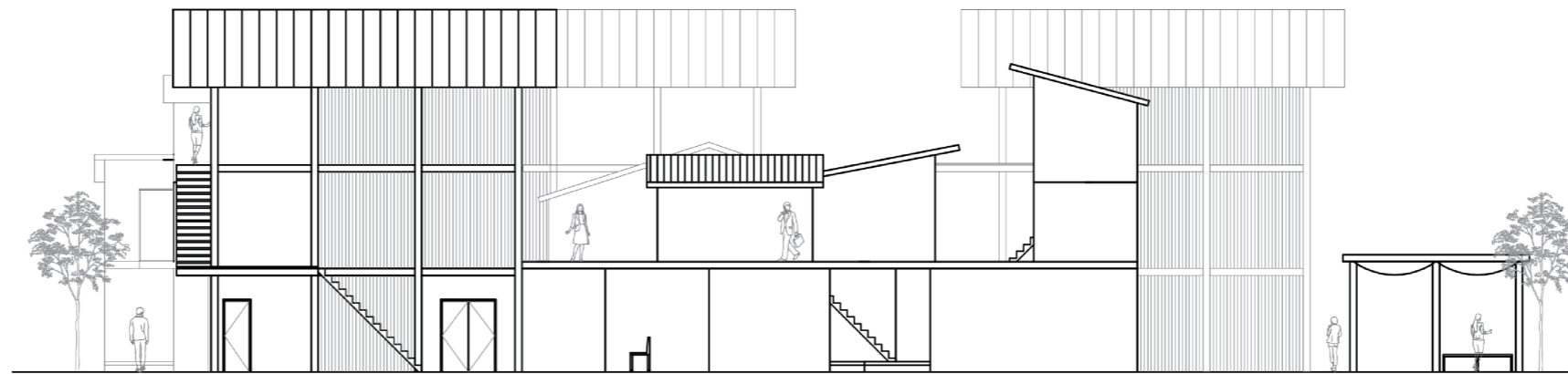
1 階平面図



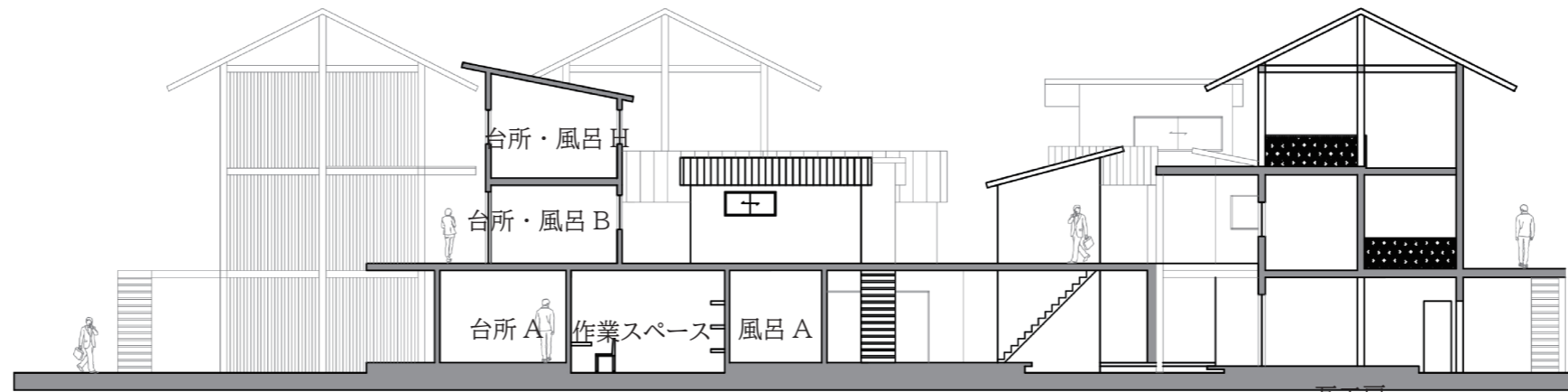




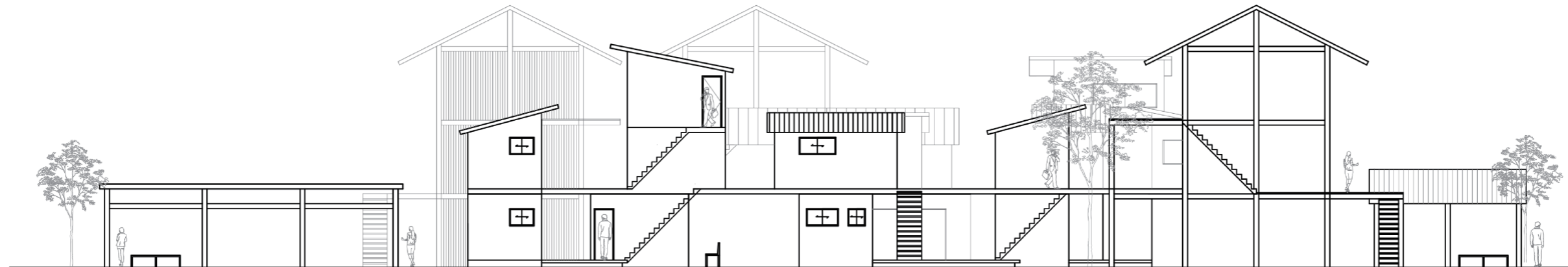
断面図 A-A'



東立面図



断面図 B-B'



南立面図

